



「じゅらんアワード2018」近畿・北陸

新温泉町が大賞 「地えびグルメ」で地域に元気

商工関係者が「地えびグルメ」の推進に取り組んでいる新温泉町が、観光雑誌が主催する「じゅらんアワード2018」の近畿・北陸ブロックで「元気な地域賞」に選ばれた。地域が連携して取り組んでいる新規事業の成果が表れ始め、関係者は喜んでいる。

「地えびグルメ」の開発・プロモーション化の実績が評価された。

「地えびグルメ」は、観光課題の解決を図る漁師から宿泊施設や飲食店

が連携して取り組んでいた。

「地えびグルメ」は、地元の漁師から宿泊施設や飲食店

が連携して取り組んでいた。



までを書き込みメニューを開発。18年春から実際に14店舗がメニューを提供してきた。提供初年度となった昨年度には、4種類のエビの食べ比べができるお刺身、カレー、海鮮丼、から揚げなどが考案され、春と秋で計3367食を提供。売上総額は約103億円。

14店舗が考案し、提供している地えびグルメのメニュー。同町商工担当者の安田秀夫次長は「地域全体で取り組み、「浜坂の地えび」が少しでも認知されただ。新たな観光プランや需要ができるお刺身、カレー、が良かった」と事業の手応えを語る。今後も事業を継続していく予定だ。

までは、4種類のエビの食べ比べができるお刺身、カレー、海鮮丼、から揚げなどが考案され、春と秋で計3367食を提供。売上総額は約103億円。

企画実行力評価 「閑散期に集客」

交流人口を増やす 教育無償化を推進

加田 裕之氏（自民・新）

人口減少と高齢化が急速に進む。
中で交流人口と観光人口を増やす
ための社会資本整備を図り、交流
人口を増やすことと生産性を上げ
ることが急務。そのため「LOT
やMO」といった第4次産業のイノ
ベーションによる生産性革命を図

賃金の格差を是正

高橋 光男氏（公明・新）

【設問3】 進む人口減少への手たては。

東京一極集中を是正するには、進学・就職での人口流出を防ぐた
東京と地方の賃金格差が一つの課め、日本全国から学生が集まるよ
題。最低賃金の引き上げを都道府
県で均一にしていくなどの取り組
みが必要。また、地域おこし協力の奨
励金返還支拂制度のさらなる定
めを含め、地域づくり人材を確保
活用も促進したい。

・定着させるための支援も必要。

水生生物採取 じっくり観察

清水 貴之氏（維新・現）



新谷の三ツ瀬で小代小学校の児童が水生生物採取を行った。児童は生物を捕獲し、生態などについて理解を深めた。

児童は小さな網を持って沢に入り、石の裏を探した。講師から「驚かせないようにならぬよう」と指導を受け、ヤゴなどの水生昆虫やサンショウウオを約20匹捕まえた。採取した生物を観察し、手足の本数や形大きさを確認。最後は、今日はありがとうございました。元気に育つ

た大きさにびっくりしたと話した。（栗原友哉）

（神戸）出入口：54
月見橋：58
満潮：21・37
干潮：15・40

（津居山）出入口：52
月見橋：50
満潮：21・37
干潮：15・40

（津居山）出入口：52
月見橋：50